

厚生労働科学研究費補助金

女性の健康の包括的支援政策研究事業

多様な世代の女性に対する情報メディアを通じた  
アプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究

令和三年度 総括研究報告書

研究代表者：藤井 知行

令和4（2022）年5月

## 目 次

I. 総括研究報告	
多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と 情報発信基盤の構築に向けた研究	
藤井 知行	----- 2
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	----- 8

# 研究報告書

厚生労働科学研究費補助金 (女性の健康の包括的支援総合研究事業)

令和三年度総括研究報告書

多様な世代の女性に対する情報メディアを通じた  
アプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究

研究代表者：藤井 知行 東京大学医学部附属病院

## 研究要旨

人生 100 年時代と言われるように日本人は長寿化しており、特に女性の平均寿命は男性よりも長い。一方で、要介護平均期間では女性の方が男性よりも長くなっており、女性の健康寿命を延長させることは、女性の QOL のさらなる向上につながるだけでなく、現役世代の介護にかかる経済的、肉体的、精神的な負担を軽減する上で喫緊の課題であると言える。女性の健康には性成熟期に卵巣から分泌される性ホルモンが大きな影響を与えており、閉経前後で女性の健康問題は大きく変化する。こうした女性特有の健康問題についての知識を一般に普及させ、女性が健康的な生活をより長く送ることができるように啓蒙することは、女性の健康寿命延長に向けた有効な施策である。

本研究では「女性の健康リテラシーに関する基盤を構築すること」を目標として、多診療科で共同して女性の健康に関する最新でかつ信頼性の高い情報を収集し、Web サイトの形式でホームページ上に一般公開、閲覧情報を解析して現状で情報提供が不十分で一般にニーズがあると考えられる領域を明らかにした。また女性の健康についてアドバイスができる「女性の健康相談員」を養成するための教育プログラムを構築している。産婦人科領域だけでなく、診療科横断的に、なるべく平易な言葉で解説したカリキュラムを作成し、Web サイトでの一般公開に向けて準備を進めた。

## 研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

大須賀穰：東京大学 医学部附属病院 女性外科教授

秋下雅弘：東京大学 医学部附属病院 老年病科教授

春名めぐみ：東京大学 大学院医学系研究科 母性看護学・助産学教授

市橋香代：東京大学 医学部附属病院 精神神経科特任講師

菊池昭彦：埼玉医科大学 医学部総合医療センター 産婦人科教授

田中裕之：東京大学 医学部附属病院 小児科助教

田中栄：東京大学医学部附属病院整形外科学教授

対馬ルリ子：医療法人社団 ウィミンズ・ウェルネス対馬ルリ子女性ライフクリニック 銀座 理事長・院長

鈴木真理：政策研究大学院大学保健管理センター教授

平池修：東京大学医学部附属病院女性診療科・産科准教授

若尾文彦：国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

## A. 研究目的

人生 100 年時代と言われるように日本人は長寿化しており、国際的に見ても日本人の平均寿命は常に上位 3 位に入っている。特に日本人女性の平均寿命は男性よりも 7 年間も長い。一方で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間である健康寿命で男女を比較すると、日本人女性の健康寿命は男性よりも 4 年しか長くない。つまり要介護平均期間は男性の 9 年間に対し女性は 12 年間であり、女性は男性よりも要介護期間が長いわけである。従って、女性の健康寿命を延長させることは、女性の QOL のさらなる向上につながるだけでなく、現役世代の介護にかかる経済的、肉体的、精神的な負担を軽減する上で喫緊の課題であると言える。

女性の健康には、性成熟期に卵巣から分泌される性ホルモンが大きく影響し、50 歳前後で閉経すると生活習慣病が急激に増加する。例えば、50 歳前では脂質異常症の患者数は男性の方が女性よりも多いが、50 歳以降では女性の方が男性よりも多くなる。また高齢期女性の多くは骨粗鬆症、認知症など高齢期特有の問題を抱え、結果としてフレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）で過ごす期間が男性よりも長くなっている。これらの女性特有の健康問題についての知識を一般に普及させ、女性が健康的な生活をより長く送ることができるように啓蒙することは、女性の健康寿命を延長させる上で重要である。

我が国のこれまでの健康支援対策では、女性の健康を管理する政策は十分ではなかった。その要因の一つは、「女性の健康リテラシーに関する基盤構築が不十分である」ために、性ホルモンのダイナミックな変化により影響される女性の健康特性が国民に十分に認識されていないことであると我々は考えている。そこで本研究では、「女性の健康リテラシーに関する基盤を構築すること」を主目的とした。

本研究班の班長である藤井は平成 27 年度に女性の健康についての多彩な情報を提供するホームページ（以下 HP）を立ち上げ、産婦人

科医師が中心となり内科、整形外科、小児科、老年病科などと共同して、女性の健康に関する最新でかつ信頼性の高い情報を収集し、インターネット上で一般公開した。本年度も、ユーザーが求めている情報つまり現状で一般に情報提供が不十分でニーズがあると考えられる情報を明らかにすることを目的として、HP を更新して、毎月、サイト毎にユーザー解析を行なった。

女性特有の疾患には、複数の診療科による集学的な治療を必要とする診療科横断的なものがある。そのような診療科横断的な疾患の場合、従来の医学の枠組みでは情報提供体制・診療体制を整備することが困難であり、そのような疾患に対する認知、疾患予防や治療に関する理解が不十分となってしまう。例えば神経性やせ症などの摂食障害は精神科疾患ではあるが、栄養不良による骨量の低下に伴う易骨折性、内分泌器官の機能不全に伴う発育障害や性発達障害、嘔吐に伴う胃液の逆流による酸蝕症（細菌の関与がない酸による化学的な歯質の溶解）や齲歯など様々な症状を合併する。逆に、これらの症状が契機で摂食障害と診断されるケースもある。したがって摂食障害の患者には、精神科医だけでなく、産婦人科医、整形外科医、小児科医、内分泌・代謝内科医、歯科医など複数の診療科の医師、看護師による診療と家族の支援が必要となる。現状では、摂食障害そのものに対する情報提供や診療体制は整備されつつあるが、それぞれの診療科専門医による診療科縦断的なものがほとんどでありいまだ十分とは言えない。

このような現状を打開するために、「女性の健康相談員」を養成することが有効であると考えている。「女性の健康相談員」の役割として、複雑な病態を呈する女性特有の疾患について、教育機関や職場などで啓蒙活動を行ったり、実際に職員の相談にのったりすることを期待している。我々はそのような「女性の健康相談員」を養成するための教育プログラムを Web サイトで作成し、インターネット上で一般公開する準備を進めている。それぞれの教育プログラムでは、女性の健康に関わる諸問題について産婦人科領域にとどまら

ず診療科横断的に、なるべく平易な言葉で解説している。またその理解度を評価するために確認テストを設けており、いわゆる eラーニングの形式をとっている。女性の健康教育プログラムにおいて、医師が非医療者を対象として作成、監修した一般公開 Web サイトの eラーニングはこれまでにない。本研究は女性の健康に関する情報の提供、普及における eラーニングの有効性を評価し、より効果的な情報提供のあり方を明らかにすることを目的としている。

## B. 研究方法

平成 27 年度に立ち上げた女性の健康に関する多彩な情報を提供する HP をベースとして、令和 3 年度も引き続き Web サイトの内容を更新して、閲覧しているユーザーの解析を行った。本研究のプラットフォームである HP に掲載されている記事に関して評価するために、毎月のセッション数およびページビュー PV 数を集計、解析した。より広く情報提供を行うために、SEO (Search Engine Optimization : 検索サイトにおける検索結果で自らのサイトを多く露出するために行う作業) 対策を継続的に行った。解析に関してはグーグルアナリティクスでデータを抽出した。本研究をおこなうにあたり、これらアクセスに関する情報 (年齢層、アクセスした端末の種類、セッション数、PV 数、よくアクセスされる記事) を解析したが、これらは機器そのものから得られる属性だけであるため、個人を識別できるような個人情報を含まないことから倫理面に関して問題点はない。

女性の健康管理に関して熟知し女性の健康についてアドバイスできる人材 (女性の健康相談員) を養成することを目的として、教育カリキュラムの作成を行なった。日本産科婦人科学会の女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムを一部活用し、不足している内容を追加、古くなっているデータを更新することにより、eラーニングシステムを構築した。作成した eラーニングのカリキュラムは、主に企業、自治体、教育機関などで女性の健康増進・向上に役立て

ることとし、一般公開に向けて準備を進めた。

## C. 研究結果

### 女性を対象とした情報提供 HP「女性の健康推進室ヘルスラボ」とそのアクセス内容に関する研究

本 HP (図 1) はライフステージ別女性の健康ガイドという大項目から、小児期・思春期、成人期、更年期、老年期、妊娠・出産、という小項目に移動出来るようにしている。本年度は大きなスタイル変更は行わなかった。

「お知らせ一覧」 (<http://w-health.jp/information/>) に新規記事を追加した。本年は特に検索されることの多いキーワードに関する女性の健康関連の記事や、ニュースなどで話題となった健康関連の出来事に関する解説記事を中心に新規情報を追加した。また SEO 対策として、記事内容の更新、記事の作成者もしくは編集者の氏名、所属、取得資格などを明記し、掲載されている記事が信頼できるものであることを示した。

### HP ユーザーの解析

平成 28 年 3 月に HP が開設されて以来、令和 3 年 12 月末日までの HP へのアクセスに関するデータを解析し、デバイス別セッション数および年齢別月間セッション数からみたユーザー属性を検討した。ユーザー属性は、25 歳から 44 歳の女性がメインユーザーであった。アクセスするデバイスの 9 割がモバイルであり、PC は 1 割だった。本 Web サイトを新規に訪問したユーザーが 9 割、リピーター訪問が 1 割だった。アクセスは平日に集中し、週前半から後半にかけて下落していた。アクセスした時間帯は 19 時から 23 時の夜が約 4 割と最多で、ついで 13 時から 18 時の午後が約 2.5 割だった。PV 数は令和 2 年 4 月から下降トレンドにあったが、令和 2 年 11 月から再度緩やかに上昇トレンドとなっていた。来訪ユーザーの月あたりの訪問回数は 1.1 回だった。本 Web サイトの流入経路は 9 割が自然検索であり、その 9 割が Google/Yahoo であった。平均滞在時

間1分以内が8割を占め、全体の6割が0秒滞在(1ページしか見なかったユーザー)であった。

1ヶ月間にサイト内のページが表示された回数(月間PV数)は、平成28年から増加傾向が続き、令和元年12月には月間PV数が185万回に達した。さらに新型コロナウイルス感染拡大を受けて、令和2年1月から4月にかけて月間PV数は急激に増加し、令和2年4月の月間PV数は290万回に達した。新型コロナウイルスの感染拡大により、健康に関する興味、関心が急速に高まったことが影響したと推測される。ところが、令和2年5月以降はPV数が激減し、5月は83万回、6月は26万回と徐々に減少し、11月には11万回となり、平成29年頃の月間PV数の水準まで減少した。

新型コロナウイルスは依然として収束しておらず、健康に関する興味、関心が低下したとは考えられなかった。令和2年5月のGoogle検索のアルゴリズムアップデートが要因と考えている。本Webサイトの特性を調査すると、1)新規訪問が9割でリピーター訪問が1割であること、2)流入経路の9割が自然検索であり、さらにその9割をGoogle/Yahooが占めていることが明らかとなった。つまり本WebサイトのPV数はGoogle検索のアルゴリズムに影響されやすく、PV数の増加にはSEO対策が急務であることが判明した。

#### 女性の健康相談員のeラーニングシステム

令和2年度に「女性の健康相談員」養成のための教育プログラムについて、本年度はカリキュラム及びコースの内容の大幅な更新作業を行なった。カリキュラムを基礎的講座と専門的講座に分類し、専門的な講座を4領域(企業や自治体などの健康相談員向け講座、アスリートや教育機関や企業の運動部担当者向け講座、中高年女性向け講座、教育機関の職員講座)のコースに細分類した。基礎講座は「月経時障害」「月経前緊張症」を作成した。専門講座は、企業や自治体などの健康相談員向けの講座として「合併症を持つ女性の妊娠、妊娠中、妊娠後にみられる症状への対応」

「乳がん検診」「更年期障害、不定愁訴」「子宮がん検診」を作成、アスリートや教育機関および企業の運動部担当者向けの講座として「原発性無月経、思春期の月経異常とその治療」「摂食障害に対する適切な対応」「骨粗鬆症」「女性アスリートのヘルスケア」を作成、中高年女性向けの講座として「血管運動神経障害」「不眠、うつ、認知症」「腰痛関連」「排尿関連症状」「外陰搔痒」「動脈硬化症に関連した症状」「女性に多くみられるがん」「加齢と妊孕性」「ロコモ、フレイル」を作成、教育機関の職員向けの講座として「避妊「リプロダクティブ・ヘルス・ライツと安全な中絶」」「日常診療で遭遇しうる若年女性の性感染症」「性暴力被害、ハラスメント、DV」「プレコンセプションケア」「OC/LEP」を作成した。またそれぞれのカリキュラムには確認テストを追加し、ユーザーの理解度を評価することとした。アップデートされたeラーニングの次年度以降の一般公開に向けて、準備を進めている。システムエンジニアの人手不足により、今年度予定していた一般公開は延期となり、令和4年度の予定となった。より効果的な「女性の健康に関する教育支援プログラム」の構築を目指している。

これまでは、日本内分泌学会学術集会、日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会、全国大学保健管理集会、日本摂食障害学会学術集会などでeラーニングについて紹介資料を作成、広報活動を行ってきたが、当研究の取り組みの成果を令和3年4月に新潟市で開催された第73回日本産科婦人科学会学術総会で公表した。

#### D. 考察

「女性の健康リテラシーの基盤構築」を主目標とする我々の活動は、女性の健康に関する情報提供を行うWebサイトと女性特有の疾患に関するeラーニングを作成、運用、評価することにより、女性の健康を支える全ての人に対する啓発を行なっている。信頼性の高い情報を、定期的に更新して一般公開するこ

とにより、女性の健康に関する意識が高まり、理解が深まることが期待される。新型コロナウイルス感染拡大を受けて、一般ユーザーの健康に関する興味、関心が高まった。さまざまな Web サイトが健康関連の記事を掲載したこともあり、そのサイトの信憑性を正確に評価することを目的として、Google の検索アルゴリズムアップデートが頻繁に行われている。継続して多くのユーザーに女性の健康に関する信頼性の高い情報提供をする上では、このアルゴリズムアップデートに適切に対応していく重要性が明らかとなった。

自然検索からの流入が大部分を占める本 Web サイトでは SEO 対策を十分に行うこと、アルゴリズムアップデートにより増減することがある検索エンジンからの流入だけでなく SNS からの流入を増やすことの重要性が示された。SEO 対策としては、既存の記事の再編集を行い、検索数の多いキーワードをタイトル・見出しに埋め込むようにする。また検索数の多いキーワードに対して、新しいコンテンツを作成する。さらに、ユーザーが検索しているキーワードをもとに記事の構成を行い、執筆者が異なる場合でも、タイトルや見出しの設定を統一できる体制を構築する。またユーザーの多い LINE や Twitter のシェア機能を追加することも有用であると考えられる。

また本 Web サイトに関してユーザビリティ上の問題点も明らかとなった。訪問回数あたりの滞在時間が短いこと、PV 数が少ないことの要因として、探している情報にたどりつきにくいこと、情報が理解しにくいこと、関連情報が得られにくいことが考えられる。本 Web サイトのユーザーの 9 割はモバイルデバイスからアクセスしており、小さなスマホの画面でも必要としている情報にアクセスできるように、目次等を用いて各デバイスのファーストビューでサイトの役割や得られる情報を伝えられるようにする。また類似した情報はセットで配置すること、サイト内検索で想定されるキーワードでの検索対応を可能にし、関連しない情報は表示しないなどの工夫が必要である。また、記載されている情報がわかるように見出しをつけること、重要情報

には太字などを用いて強調することも有用である。コンテンツ間で連携した導線を設置することにより、滞在時間、PV 数の増加が期待できる。

今後さらに有用な対策を取れるように分析環境の整備も課題である。Google Analytics では可能となっているクリックや動画再生のイベント設定を行うことにより、ユーザーの生の行動を辿ることが可能となる。またダッシュボード環境を整備し、PDCA サイクルを素早く回せるようにすることも分析の上で有用であると考えている。

またより多くのユーザーが本 HP を継続して閲覧するための方策として、企業や自治体、教育機関の職員を対象に、本研究で作成した Web サイト、e ラーニングを職場単位で紹介することを検討している。本研究班の班長である藤井は、平成 30 年、令和元年に企業や地方自治体を対象とした「女性の健康維持」に関する職場における取り組みの実地例を収集した。なでしこ銘柄企業を中心としたいくつかの企業では、女性の健康維持に関する独自の取り組みを行っていた。そのような女性の健康維持に積極的に取り組む企業や自治体の健康管理部門の担当者に、本研究で作成した Web サイトや e ラーニングを紹介し、企業内で広報活動を行い啓蒙活動に活用してもらうことにより、多くのユーザーに情報を届け、女性の健康維持に関するリテラシー向上を図ることができる。また e ラーニングのカリキュラムを用いて、企業単位でのヘルスリテラシーの評価、企業間比較を行い、それぞれの企業での女性健康推進対策の立案をサポートできる可能性がある。

現在は情報提供 Web サイトと e ラーニングはそれぞれ独立して運用しているが、今後は情報提供 Web サイトの閲覧状況を解析することにより、どのような分野がユーザーに興味を持たれているか調査し、e ラーニングのカリキュラムに反映させる、逆に e ラーニングの確認テスト結果などを解析することにより、どの分野の情報提供が足りていないかを調査し、情報提供 Web サイトに反映させるというような相互連携を進めていく予定である。



## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
春名めぐみ他	妊婦への支援	我部山キヨ子 / 武谷雄二	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 (第5版)	医学書院	東京	2021	218-292
鈴木(堀田)眞理/松下正明監修	行動症または摂食症群の治療 医学的管理と治療 (身体治療). 食行動症または摂食症群	・神庭重信編集主幹・久住一郎編集	精神疾患の臨床		東京	2021	380-390
鈴木眞理	神経性やせ症. 最新ガイドラインに基づく代謝・内分泌疾患	加太脇隆・下村伊一朗編集	診療指針		東京	2021	240-246
鈴木眞理	やせ (過激なダイエット・偏食含む)	金田雅代編.	四訂栄養教諭論 第2版—理論と実践		東京	2022	159-162

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Oda H, Nagamatsu T, Schuster DJ, Cabral H, Miyazaki T, Iriyama T, Kawana A K, Osuga Y, Fujii T.	Recombinant Thrombomodulin Attenuates Preeclamptic Symptoms by Inhibiting High-Mobility Group Box 1 in Mice.	Endocrinology	162(4)	bqaa248	2021
Ikeda Y, Adachi K, Tomio K, Eguchi-Kojima S, Tsuruga T, Uchino-Mori M, Taguchi A, Konomatsu A, Nagamatsu T, Oda K, Kawana-Takahikawa A, Uemura Y, Igimi S, Osuga Y, Fujii T, Kawana K.	A Placebo-Controlled, Double-Blind Randomized (Phase IIB) Trial of Oral Administration with HPV16 E7-Expressing Lactobacillus, GBLB101c, for the Treatment of Cervical Intraepithelial Neoplasia Grade 2(CIN2)	Vaccines (Basel)	9(4)	329	2021

Kawata A, Taguchi A, Baba S, Miyamoto Y, Tanikawa M, Sone K, Tsuruga T, Mori M, Oda K, Kawana K, Osuga Y, Fujii T.	A low preoperative albumin-to-globulin ratio is a negative prognostic factor in patients with surgically treated cervical cancer.	Int J Clin Oncol.	26(5)	980-985	2021
Yamaguchi K, Matsumoto Y, Suzuki R, Nishida H, Omata D, Inaba H, Kukitani A, Tanikawa M, Sone K, Oda K, Osuga Y, Maruyama K, Fujii T.	Enhanced antitumor activity of combined lipid bubble ultrasound and anticancer drugs in gynecological cervical cancers.	Cancer Sci.	112(6)	2493-2503	2021
Oda H, Nagamatsu T, Cabral H, Miyazaki T, Iriyama T, Kawana K, Fujii T, Osuga Y.	Thrombomodulin promotes placental function by up-regulating placental growth factor via inhibition of high-mobility-group box 1 and hypoxia-inducible factor 1 $\alpha$ .	Placenta.	111	1-9	2021
Matsui H, Iriyama T, Sayama S, Inaoka N, Suzuki K, Yoshikawa M, Ichinosue M, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Fujisawa T, Naguro I, Ichijo H, Fujii T, Osuga Y.	Elevated placental histone H3K4 methylation via upregulated histone methyltransferases SETD1A and SMYD3 in preeclampsia and its possible involvement in hypoxia-induced pathophysiological process.	Placenta.	115	60-69	2021
Mimura N, Nagamatsu T, Morita K, Taguchi A, Toya T, Kumasawa K, Iriyama T, Kawana K, Inoue N, Fujii T, Osuga Y.	Suppression of human trophoblast syncytialization by human cytomegalovirus infection.	Placenta.	117	200-208	2022
Kanda R, Miya-gawa Y, Wada H, Hiraike O, Hiraike H, Nagasaka K, Ryo E, Fujii T, Osuga Y, Ayabe T.	Ulipristal acetate simultaneously provokes antiproliferative and proinflammatory responses in endometrial cancer cells.	Heliyon.	8(1)	E08696	2022
Tamaru S, Jwa SC, Ono Y, Sekine H, Matsumoto Y, Osuga Y, Fujii T.	Feasibility of a mobile cardiotocogram device for fetal heart rate monitoring.	J Obstet Gynaecol Res	48(2)	385-392	2022

Harada M, Takahashi N, Azhary JM, Kunitomi C, Fujii T, Osuga Y.	Endoplasmic reticulum stress: a key regulator of the follicular microenvironment in the ovary.	Mol Hum Reprod	27(1)	Gaaa088	2021
Hirata T, Koga K, Taniguchi F, Takazawa N, Honda R, Tanaka T, Kurihara M, Nakajima J, Yoshimura K, Kitade M, Narahara H, Kitawaki J, Harada T, Katabuchi H, Horie S, Osuga Y.	National survey of bladder endometriosis cases in Japan.	J Obstet Gynaecol Res.	47	1451-61	2021
Makabe T, Koga K, Nagabuku H, Asada M, Satake E, Taguchi A, Takeuchi A, Miyashita M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y.	Use of selective PGE2 receptor antagonists on human endometrial stromal cells and peritoneal macrophages.	Mol Hum Reprod	27	gaaa077	2021
Akaeda S, Hirota Y, Fukui Y, Aikawa S, Shimizu-Hirota R, Kaku T, Gebril M, Hirata T, Hiraoka T, Matsuo M, Haraguchi H, Saito-Kanata ni M, Takeda N, Fujii T, Osuga Y.	Retinoblastoma protein promotes uterine epithelial cell cycle arrest and necroptosis for embryo invasion.	EMBO Rep	22(2)	e50927	2021
Sone K, Toyohara Y, Taguchi A, Miyamoto Y, Tanikawa M, Uchino-Mori M, Iriyama T, Tsuruga T, Osuga Y.	Application of artificial intelligence in gynecologic malignancies: A review.	J Obstet Gynaecol Res	47(8)	2577-2585	2021
Fukuoka K, Hirata T, Koga K, Morimoto C, Osuga Y.	An Unusual Imaging Appearance of Peritoneal Endometriosis Presenting a Pelvic Multilocular Tumor.	J Minim Invasive Gynecol.	28(9)	1561-63	2021

Shimamoto K, Hirano M, Wada a-Hiraike O, Goto R, Osuga Y.	Examining the association between menstrual symptoms and health-related quality of life among working women in Japan using the EQ-5D.	BMC Women's Health.	21(1)	325	2021
Harada M, Osuga Y.	Does polycystic ovary syndrome independently affect oncologic and reproductive outcomes in patients with endometrial cancer receiving fertility-sparing treatment?	J Gynecol Oncol.	32(5)	E80	2021
Yasuoka T, Iwama N, Ota K, Harada M, Hasegawa J, Yaegashi N, Sugiyama T, Suzuki N, Osuga Y.	Pregnancy outcomes in children, adolescents, and young adults that survived cancer: a nationwide survey in Japan. 2021.	J Obstet Gynaecol Res.	47(9)	3352-61	2021
Ono Y, Kawakita T, Yoshino O, Sato E, Kano K, Ohba M, Okuno T, Ito M, Koga K, Honda M, Furue A, Hiraoaka T, Wada S, Iwasa T, Yokomizo T, Aoki J, Maeda N, Ueno N, Osuga Y, Hirata S.	Sphingosine 1-Phosphate (S1P) in the Peritoneal Fluid Skews M2 Macrophage and Contributes to the Development of Endometriosis.	Biomedicine.	9(11)	1519	2021
Sone K, Inoue F, Taguchi A, Hinata M, Ikemura M, Miyamoto Y, Michihiro T, Ohno T, Iriyama T, Mori-Uehino M, Tsurugawa T, Mishima M, Osuga Y.	A case of difficult-to-diagnose non-invasive papillary squamous cell carcinoma of the uterine cervix infected with human papilloma virus 6: A diagnostic pitfall.	Clin Case Rep.	9(10)	E04905	2021
Fukui Y, Hirota Y, Saito-Fujita T, Aikawa S, Hiraoaka T, Kaku T, Hirata T, Akaieda S, Matsuo M, Shimizu-Hirota R, Takeda N, Ikawa M, Osuga Y.	Uterine Epithelial LIF Receptors Contribute to Implantation Chamber Formation in Blastocyst Attachment.	Endocrinology.	162(11)	bqab169	2021

Kusamoto A, Harada M, Azhary JMK, Kunitomi C, Nose E, Koike H, Xu Z, Urata Y, Kaku T, Takahashi N, Wada-Hiraikae O, Hirota Y, Koga K, Fujii T, <u>Osuga Y.</u>	Temporal relationships between alteration in the gut microbiome and the development of polycystic ovary syndrome-like phenotypes in prenatally androgenized female mice.	FASEB J.	35(11)	e21971	2021
Satake E, Koga K, Takamura M, Izumi G, Elsherbini M, Taguchi A, Makabe T, Takeuchi A, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraikae O, <u>Osuga Y.</u>	The roles of polymorphonuclear myeloid-derived suppressor cells in endometriosis.	J Reprod Immunol.	148	103371	2021
Fukui Y, Hirota Y, Aikawa S, Ishizawa C, Iida R, Kaku T, Hirata T, Akaeda S, Hiraoka T, Matsuo M, <u>Osuga Y.</u>	Uterine Receptivity is Reflected by LIF Expression in the Cervix.	Reprod Sci	In press		2021
Aikawa S, Hirota Y, Fukui Y, Ishizawa C, Iida R, Kaku T, Hirata T, Akaeda S, Hiraoka T, Matsuo M, <u>Osuga Y.</u>	A gene network of uterine luminal epithelium organizes mouse blastocyst implantation.	<i>Reprod Med Biol</i>	21(1)	e12435.	2022
Kunitomi C, Harada M, Kusamoto A, Azhary JMK, Nose E, Koike H, Xu Z, Urata Y, Takahashi N, Wada-Hiraikae O, Hirota Y, Koga K, Fujii T, <u>Osuga Y.</u>	Induction of aryl hydrocarbon receptor in granulosa cells by endoplasmic reticulum stress contributes to pathology of polycystic ovary syndrome.	<i>Mol Hum Reprod</i> 2021		gaab003	2022

Kunitomi C, Harada M, Sanada Y, Kusamoto A, Fujio K, Takai Y, Furui T, Kitagawa Y, Yamada M, Watanabe C, Tsugawa K, Nishiyama H, Hosoi H, Miyachi M, Sugiyama S, Maeda Y, Kawai A, Hamatani T, Fujio K, Suzuki N, Osuga Y.	The possible effects of the Japan Society of Clinical Oncology Clinical Practice Guidelines 2017 on the practice of fertility preservation in female cancer patients in Japan.	Reprod Med Biol	21(1)	e12453	2022
Iriyama T, Sayama S, Osuga Y.	Role of adenosine signaling in preeclampsia.	J Obstet Gynaecol Res	48(1)	49-57	2022
Sone K, Taguchi A, Kawata A, Eguchi S, Miyamoto Y, Tanikawa M, Uchino Mori M, Iriyama T, Tsuruga T, Osuga Y.	Transiently elevated D-dimer levels post-concentrated ascites reinfusion therapy cannot be used to predict deep vein thrombosis-pulmonary embolism.	J Obstet Gynaecol Res.	48(3)	817-823	2022
Harada T, Osuga Y, Suzuki Y, Fujisawa M, Fukui M, Kitawaki J.	Relugolix, an oral gonadotropin-releasing hormone receptor antagonist, reduces endometriosis-associated pain compared with leuprorelin in Japanese women: a phase 3, randomized, double-blind, noninferiority study.	Fertil Steril	117(3)	583-592	2022
大須賀 穰.	生殖医学の発展を期待して.	ファルマシア	58巻1号	5	2022
浦田陽子、大須賀 穰.	【少子化時代における就労女性の不妊治療】 就労女性のための不妊治療と保険適用.	産科と婦人科	88巻12号	1397-1400	2021
大須賀 穰.	ホルモンQ&A: 不妊治療の保険適用をめぐる最近の話題を教えてください.	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY.	28巻3号	244-245	2021
芦川 すが, 泉 玄太郎, 森嶋 かほる, 浦田 陽子, 能瀬 さやか, 廣田 泰, 甲賀 かをり, 平池 修, 大須賀 穰,	術中に他科との連携を要した良性疾患に対する腹腔鏡下手術症例の検討.	関東連合産科婦人科学会誌	58	679-684	2021

矢野 倫子, 泉 玄太郎, 竹内 亜利砂, 森嶋 かほる, 浦田 陽子, 能瀬 さやか, 廣田 泰, 甲賀 かをり, 平池 修, 藤井 知行, 大須賀 穰	当院における子宮鏡下選択的卵管通水法の効果についての検討。	産科と婦人科	88	639-642	2021
Kazawa K, Akishita M, Ikeda M, Iwatsubo T, Ishii S.	Experts' perception of support for people with dementia and their families during the COVID-19 pandemic.	Geriatr Gerontol Int.	Epub ahead of print		2021
Handa N, Mitsutake S, Ishizaki T, Nakabayashi T, Akishita M, Tamiya N, Yoshie S, Iijima K.	Associations of coprescribed medications for chronic comorbid conditions in very old adults with clinical dementia: a retrospective cohort study using insurance claims data.	BMJ Open	11(7)	E043768	2021
Yamada Y, Kojima T, Umeda-Kameyama Y, Ogawa S, Eto M, Akishita M.	Outcomes of anticoagulant prescribing for older patients with atrial fibrillation depends on disability level provided by long-term care insurance.	Arch Gerontol Geriatr.	96	104434	2021
Kazawa K, Kubo T, Ohge H, Akishita M, Ishii S.	Preparedness guide for people with dementia and caregivers in COVID-19 pandemic.	Geriatr Gerontol Int.	21(7)	593-595	2021
Umeda-Kameyama Y, Kameyama M, Tanaka T, Son BK, Kojima T, Fukasawa M, Iizuka T, Ogawa S, Iijima K, Akishita M.	Screening of Alzheimer's disease by facial complexion using artificial intelligence.	Aging (Albany NY)	13(2)	1765-1772	2021
Suzuki Y, Sakakibara M, Shirashi N, Komiya H, Akishita M, Kuzuya M.	Use of Anti-Dementia Drugs Reduces the Risk of Potentially Inappropriate Medications: A Secondary Analysis of a Nationwide Survey of Prescribing Pharmacies.	Dement Geriatr Cogn Disord.	Online ahead of print.		2021
Kojima T, Mizokami F, Akishita M.	Geriatric management of older patients with schizophrenia.	Geriatr Gerontol Int	20	1105-1111	2021

Nomura K, Eto M, Ogawa S, Kojima T, Iijima K, Nakamura T, Araki A, Ouchi Y, Akishita M.	Association between low muscle mass and metabolic syndrome in elderly Japanese women.	PLoS One.	15	E0243242	2021
Japan Geriatrics Society Subcommittee on End-of-Life Issues and New Coronavirus Countermeasure Team, Kuzuya M, Aita K, Katayama Y, Katsuya T, Nishikawa M, Hirahara S, Miura H, Yanagawa M, Arai H, Iijima K, Okochi J, Kozaki K, Yamaguchi Y, Rakugi H, Akishita M.	The Japan Geriatrics Society consensus statement "recommendations for older persons to receive the best medical and long-term care during the COVID-19 outbreak-considering the timing of advance care planning implementation".	Geriatr Gerontol Int.	20	1112-1119	2021
Japan Geriatrics Society Subcommittee on End-of-Life Issues, Kuzuya M, Aita K, Katayama Y, Katsuya T, Nishikawa M, Hirahara S, Miura H, Rakugi H, Akishita M.	Japan Geriatrics Society "Recommendations for the Promotion of Advance Care Planning": End-of-Life Issues Subcommittee consensus statement.	Geriatr Gerontol Int	20	1024-1028	2021
Sugawara C, Yamana H, Sasagawa E, et al.	Factors Associated with Surgical Treatment in Postpartum Women with Mastitis or Breast Abscess: A Retrospective Cohort Study.	Breastfeed Med	17(3)	233-238	2022
Murakami M, Yonezawa K, Shimizu S, Haruna M, Sasagawa E, Usui Y.	Newborn-oriented and environmental factors for newborns' skin barrier functions.	Jpn J Nurs Sci.	19(2)	e12457	2022
Shiraishi M, Matsuzaki M, Tsunenematsu R, Watanabe S, Kobayashi R, Haruna M.	Effects of Individual Dietary Intervention on Nutrient Intake in Postpartum Japanese Women: A Randomized Controlled Trial.	Nutrients.	13(9):	3272	2021
Hikita N, Batsaikhan E, Sasaki S, Haruna M, et al.	Factors Related to Lack of Knowledge on the Recommended Health	Int J Environ Res Public Health	18(8)	3850	2021

Shimizu S, Yonezawa K, Haruna M, et al.	Relationship between the skin barrier function of 2-week-old infants after bathing and facial skin problems during the first 6 weeks of life: A prospective observational cohort study	Jpn J Nurs Sci		e12408	2021
Hashimoto N, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ishikawa S, Numata S, Hori H, Iida H, Ichihashi K, Furihata R, Murata A, Tsuboi T, Takeshima M, Kyouchi Y, Komatsu H, Kubota C, Ochi S, Takaesu Y, Usami M, Nagasawa T, Hashimoto A, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Inada K, Watanabe K, Shimoda K, Hashimoto R.	Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project.	Asian Journal of Psychiatry	63	102744	2021
Furihata R, Otsuki R, Hasegawa N, Tsuboi T, Numata S, Yasui-Furukori N, Kashiwagi H, Hori H, Ochi S, Muraoka H, Onitsuka T, Komatsu H, Takeshima M, Hishimoto A, Nagasawa T, Takaesu Y, Nakamura T, Asami T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yasuda Y, Iida H, Ogasawara K, Hashimoto N, Ichihashi K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R.	Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study.	Sleep Med	89	23-30	2022

Ogasawara K, Numata S, Hasegawa N, Nakagawa M, Makino M, Ohi K, Takeshima M, Tsuboi T, Hashimoto N, Onitsuka T, Muraoka H, Hori H, <u>Ichihashi K</u> , Inagakura T, Yasui-Furukori N, Hishimoto A, Sugiyama N, Fukumoto K, Nagasawa T, Matsumoto J, Takaesu Y, Furihata R, Nemoto K, Nakamura T, Usami M, Miura K, Fujimoto M, Tagata H, Yamada H, Komatsu H, Ochi S, Atake K, Katsumoto E, Kido M, Kishimoto T, Suwa T, Yamamura S, Iga JI, Iida H, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.	Subjective assessment of participants in educational programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry.	Neuropsychopharmacol R			2022
Onitsuka T, Hirano Y, Nakazawa T, <u>Ichihashi K</u> , Miura K, Inada K, Mitoma R, Yasui-Furukori N, Hashimoto R.	oward recovery in schizophrenia: Current concepts, findings, and future research directions.	Psychiatry Clin Neurosci.			2022
<u>Ichihashi K</u> , Kyou Y, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Shimizu Y, Hori H, Hashimoto N, Ide K, Imamura Y, Yamada H, Ochi S, Iga JI, Takaesu Y, Ohi K, Tsuboi T, Iida H, Yamagata H, Hishimoto A, Horai T, Usami M, Makino M, Nagasawa T, Komatsu H, Kishimoto M, M	The characteristics of patients receiving psychotropic medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project.	Asian J Psychiatry.	69	103007	2022

Yagi Y, Takahashi Y, Ogata Y, Yamana H, Kurumakura Y, Ichihashi K, Kasai K, Kondo S.	Oral corticosteroid dosage and clinical presentation of psychiatric conditions after steroid use: A consultation-liaison psychiatry service's experience.	Neuropsychopharmacol Rep.	41	471-475	2022
稲垣中, 佐藤英樹, 稲田健, 市橋香代, 中川敦夫, 古郡規雄, 橋本亮太,	本神経精神薬理学会統合失調症薬物治療ガイドライン改訂版作成タスクフォースブラッシュアップチーム. わが国で実施された臨床試験と使用成績調査の結果から見た抗精神病薬による統合失調症薬物治療の安全性.	臨床精神薬理	24	1153-1169	2021
市橋香代, 橋本亮太.	【向精神薬の出口戦略】当事者・家族・支援者と作り上げる出口戦略.	臨床精神薬理	24	911-918	2021
齋藤隼, 鮫島浩輝, 佐藤翔, 魚谷隆弘, 松永茂剛, 長井智則, 齋藤正博, 菊池昭彦, 高井泰	卵巣成熟奇形腫破裂により, 化学性腹膜炎・術後腹腔内膿瘍を発症し, 治療に難渋した1例	埼玉産科婦人科学会雑誌	52	73-78	2022
清水元治, 黒瀬喜子, 高橋葉子, 宮澤祐樹, 沢田圭佑, 江良澄子, 赤堀太一, 矢部慎一郎, 小野義久, 松永茂剛, 長井智則, 齋藤正博, 菊池昭彦, 田丸淳二, 高井泰	妊娠中に転移性卵巣腫瘍の診断に至った直腸癌既往妊娠の1例	埼玉産科婦人科学会雑誌	52	23-28	2022
宮下大輔, 赤堀太一, 黒瀬喜子, 魚谷隆弘, 松永茂剛, 長井智則, 齋藤正博, 菊池昭彦, 高井泰	帝王切開瘢痕部妊娠の中絶手術後に発生した子宮動静脈奇形に対し子宮摘出に至った1例、	埼玉産科婦人科学会雑誌	52	100-105	2022
Ono Y, Takeuchi T, Tsushima R, Nakamura Y, Hashizume M	Factors related to aggravation of menopausal disorders - Focusing on somatosensory amplification -	Journal of Japanese Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology	Vol.25,3	175-182	2021
対馬ルリ子	産婦人科医が考える女性の理想体型女性のやせの問題 (女子ホルモンと栄養) - -女性のやせの問題 (女子ホルモンと栄養) -	日本アンチエイジング歯科学会誌	vol.14	18-23	2021

対馬ルリ子	女性とスポーツ医学	東京産婦人科 医会会誌	第316号No.2 159		2021
対馬ルリ子	女性のライフステージ とホルモンの変化	Rp.+	vol.21 No.1	38-45	2022
対馬ルリ子	妊娠・出産・育児期に特 有の健康課題	産業保健と看 護	14巻1号	31-35	2022
対馬ルリ子	経口妊娠中絶薬の治験 について 2021年12月、経口妊娠 中絶薬が承認申請	東京思春期保 健研究会 N ews Letter	156号	3	2022
鈴木（堀田）眞理	日本女性のやせと健康 問題	健康医学（一 般財団法人健 康医学協会）	51	34-36	2021
鈴木眞理	一般社団法人日本摂食 障害協会の活動	臨床栄養	139巻5号	657-662	2021
小原千郷，菅原彩 子，西園マーハ 文，鈴木（堀田）眞 理	オンライン上で行う摂 食障害の啓発活動の試 みとその課題—当事者 の発表動機と発表の影 響に着目して—人間科 学研究	文教大学人間 科学部	42	71-80	2021

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究 (20FB1001)
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・届出研究員  
(氏名・フリガナ) 藤井 知行・フジイ トモユキ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月30日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究 (20BF1001)
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・教授  
(氏名・フリガナ) 大須賀 穰・オオスガ ユタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	■ □	■	東京大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月30日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・教授  
(氏名・フリガナ) 秋下 雅弘・アキシタ マサヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月30日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究 (20BF1001)
- 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・届出診療員  
(氏名・フリガナ) 春名 めぐみ・ハルナ メグミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	■ □	■	東京大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月30日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究 (20FB1001)
- 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・特任講師(病院)(助教)  
(氏名・フリガナ) 市橋 香代・イチハシ カヨ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	■ □	■	東京大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □(無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □(無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □(無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■(有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月30日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究 (20FB1001)
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・助教  
(氏名・フリガナ) 田中 裕之・タナカ ヒロユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究 (20BF1001)
- 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・准教授  
(氏名・フリガナ) 平池 修・ヒライケ オサム

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月30日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究 (20FB1001)
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・教授  
(氏名・フリガナ) 田中 栄・ タナカ サカエ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4 年 3 月 31 日

厚生労働大臣

殿

機関名 国立がん研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 斉

次の職員の令和 4 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 国立がん研究センター がん対策研究所 事業統括  
(氏名・フリガナ) 若尾 文彦 ・ ワカオ フミヒコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

厚生労働大臣 殿

機関名 埼玉医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 別所正美

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 埼玉医科大学総合医療センター産婦人科 教授  
(氏名・フリガナ) 菊池昭彦 キクチアキヒコ
4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし、一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 医療法人社団ウィミンズ・ウェルネス

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 対馬 ルリ子

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医療法人社団ウィミンズ・ウェルネス・理事長  
(氏名・フリガナ) 対馬 ルリ子・ツシマ ルリコ
4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 東京大学 )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 年度内の審査に間に合わなかった )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 跡見学園女子大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 小仲 信孝

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 多様な世代の女性に対する情報メディアを通じたアプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 心理学部 臨床心理学科・特任教授  
(氏名・フリガナ) 鈴木 眞理・スズキ マリ
- 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。